

働く人の健康を考える

ワーク&ヘルス

広島市南区金屋町8-20 TEL 082-264-4110

郵便振替口座 01310-9-42400

目次

◆ 3月1日～2日「労災・アスベスト110番」開設

NHK 取材 18件の相談件数

◆ 「非正規」最多の102万人

中国地方13年度平均 正規雇用伸びず

◆ 胆管がん追加認定

厚労省 労災新たに65歳男性

◆ 編集後記

2014年 3月28日

第226号

広島労働安全衛生センター

3月1日～2日「労災・アスベスト110番」開設

NHK 取材 18件の相談件数

今月の1日～2日にかけて「労災・アスベスト110番」の電話相談を実施した。1日目の当日、午前10時前にNHKテレビ局が取材に来られスタッフ一同は緊張した面持ちで取材に応じた。NHKの記者から「この取材は昼のローカル版で放送されます」と告げられ、12時のニュースを待ち望んだ。放送は1分足らずであったが、午後からの電話相談は途切れることがないほどで、NHKの影響力は絶大であることがあらためて理解できた。しかもこの放送は昼と夕方の2回放送されたことがその夜になって判明した。

その甲斐もあって相談件数は2日間で18件の相談件数が寄せられた。1日目は10件、2日目は8件であった。相談内容も深刻な相談が大半であり、以下、おもな相談内容を紹介しします。

相談事例1、

Sさんの相談内容は、健康管理手帳が交付されているのにもかかわらず、「移送費が支給されない」との事でした。「予算がない」これが労働局の理由の根拠と聞き驚きました。翌日、労働局に問い合わせると「前年度の支払いを今年度の予算から支払っている」と説明を受けました。別の言い方をすれば借金を後追いで支払っていると云うことです。労働局は「補正予算が成立したので近々支払います」という回答でした。このことをSさんに伝えると納得されました。センターとしてもこの件に関して移送費支払の仕組みについて理解することが出来ました。またこの件を通じてSさんはセンターの個人会員に加入されました。

相談事例2、

Fさんは、海上自衛隊に昭和40年～平成13年まで機関士として勤務。在職中は護衛艦に乗務しアスベストを扱っていたということでした。退職後は民間で働いているが健康に不安を感じている。健康管理手帳は交付しているが医者から「石綿肺」の診断を受けている。その関係もあって肺活量は低くなってきており無理が利かなくなっている。Fさんは「私と同じ職種で働いていた人と交流がしたい」との意向。センターとして海上自衛隊呉基地に勤務していた方と日程調整を行い交流の実現を図りたい。

相談事例3、

Iさんは、高速道路のトンネル工事として18歳から定年退職の65歳まで勤務。現在は72歳だが健康に不安を感じている。50代に煙草をやめ人間ドックに定期的に検査を受けている。肺活量が低くなってきているのでどうすればいいのだろうかとの相談。

トンネル工事に長く勤務しているので「健康管理手帳」の交付は十分に可能と助言。

その上で、労災申請を視野に入れ準備が出来ればセンターも同行し労基署に申請。

相談事例 4、

Hさんは、長崎県佐世保重工に保温工として昭和32年～44年まで約13年間勤務。その後は、広島幸陽ドックで昭和45年から個人事業主の下請けとして電気工事を昭和53年まで働いていた。現在は、総合病院での精密検査の結果では「アスベスト肺」の病名診断を受けている。

まずは「健康管理手帳」の交付を受けること。交付を受けた後、「アスベスト肺」の管理区分次第で労災申請を行うことを助言。Hさんの住まいが尾道市ということもあって、事務局で対応を検討しお返事をすることを伝えた。

相談事例 5、

Nさんは、窓ガラス取り付け工事に従事。その際に鉄骨にアスベストの吹き付け工事が頻繁に行われていた。労働局や環境保全機構に行っても取り合ってもらえない。どうすればよいのかとの相談。但し、窓ガラス取り付け工務店は閉鎖されているとのこと。

勤続年数は不明。助言としてまずは、事業主を訪ね証言を求める。それが難しければ同僚からの証言を取り寄せること。労災申請を視野に入れながら「健康管理手帳」の申請を行うことを助言。

相談事例 6

Nさんは、水道工事に30年間従事していた。水道の配管にアスベストが使用されていたのは知っていた。現在は体調も思わしくなく入退院を繰り返しているとのこと。

助言としてはレントゲン検査を行うこと。それを持参してセンターに来所していただければ、顧問の医師を紹介しますと助言。レントゲン検査結果次第では労災申請も十分に可能。

相談事例 7

Hさんは、大手の造船企業に41年勤務。その内の20年近くは船底のエンジンルーム内でアスベスト粉塵が飛び散っていたのを憶えている。Hさんは現場の作業長で直接にはアスベストを扱っていないがその周辺で仕事を行っていたという。後半の20年間は関連会社で勤務していたが、アスベストは取り扱っていなかったと云っている。

現在は肺がんで入院中。退院次第センターに来所相談したいとの意向でした。

相談事例 8

Nさんは、熊谷組の下請けとして勤務。仕事の内容は、トンネル工事に従事され配管にアスベストの吹き付けを行っていたという。熊谷組の下請けを退社して以降は広島で石綿管産廃処理を行っていた。「健康管理手帳」は11年前に交付済みだが、健康に不安を持っている。

助言として「健康管理手帳」交付済みである以上労災申請は十分に可能。労災として認定されれば「休業補償」や「遺族年金」受給の仕組みについて説明。家族も安心されるのではと労災申請することを強く勧めた。

そのほか基町市営住宅に居住されている方から、十数年前火災があつて以降、アスベストが使用されていることが判明。市として撤去工事は完了している。にもかかわらずその問い合わせが寄せられたが、勘違いであつたことが後日、「広島市都市整備局 住宅部 住宅整備課」（基町住宅担当）者より報告があつた。

「非正規」最多の102万人

中国地方13年度平均 正規雇用伸びず

2013年平均の中国地方の非正規雇用が102万人と前年より4万人増え、過去最高となつたことが、総務省の労働力調査で分かつた。正社員などの正規雇用は192万人で1万人増にとどまつた。景気の回復傾向が、必ずしも正社員の増加に繋がっていない実態が浮かぶ。

派遣社員や契約社員などの非正規は2年ぶりに増加に転じ、比較できる統計がある。02年以降で最高だった11年の100万人を上回つた。02年に比べると22万人（28%）増えた。全雇用者に占める割合は34・7%に達し、過去最高だった12年を0・8ポイント上回つた。

正規雇用は3年ぶりに増えた。全雇用者は295万人で6万人増えた。統計は1千人単位で四捨五入しているため合計が一致しない。

男性の全雇用者に占める非正規の割合は20・0%と2・2ポイントアップ。初めて20%台に乗つた。女性の同じ割合は52・6%で0・4ポイント下がった。

13年に入り、円安やアベノミクス効果で輸出企業を中心に収益が大きく改善。中国地方の有効求人倍率（季節調整値）は昨年12月に1・15倍とリーマンショック前の2007年の水準に持ち直したものの、求人の伸びは非正規雇用が大きいことを裏付ける。

広島労働局は、輸出の増加に対応して自動車産業などが期間従業員や派遣社員を増やしていると分析。「他の業種でも先行きに確信が持てず、当面の雇用を非正規で補う傾向がある。正社員の採用には慎重姿勢を崩していない」としている。この記事が指摘しているように、アベノミクス効果は正規雇用の拡大には繋がってはならず、実態は逆に非正規雇用が拡大している。安倍首相が強調する景気回復は皮肉な結果として表れている。



厚労省 労災新たに65歳男性

2014年3月5日 朝日新聞朝刊より掲載

編集後記

広島労働安全衛生センターは、3月1日から2日にかけて「労災・アスベスト110番」の電話相談を実施した。

「電話相談」を実施するにあたって事務局会議では、マスコミ対策は重要との認識の下、テレビ局を訪問し取材の申し込みを行うこととした。訪問先はNHKとRCCにしぼっておこない、NHKとは記者と面会ができたが、RCC放送局とは記者が不在なため面会は出来ず、取材の申し込みは不発に終わってしまった。

「電話相談」の前日、中国新聞社より「『労災・アスベスト110番開設要請文』を直前に県庁記者クラブに持参されても記事として掲載は無理です」と断りの電話が入りショックを受けていた。ところが30分もしない間に今度は、NHKから「取材に行きますのでよろしく」との電話連絡が入ってきた。まさにどん底から救われたような気分になったのを覚えている。

1日の当日、NHK記者は10時前に事務所に来所され、10時からの開設と同時に電話が鳴り取材が開始された。記者からは「電話相談」の目的やアスベスト被害の現状が質問され、取材は1時間あまり行われ終了した。取材の報道は昼の全国ニュースのあと「広島版」で放映された。これに関連して後から知ったことだが、当日の夕方のニュースでも放映されたことを事務局員の家族から知らされた。

NHKの影響力は絶大です。当日の昼からは、相談件数にとぎれないほど寄せられ、1日目は10件の相談件数と、2日目は8件の相談があり合計で18件寄せられる結果となった。

電話相談の内容は、深刻な相談からアスベストに関する質問や問い合わせ等様々な相談が寄せられたが、大半は労災として申請する価値があるものであった。ある相談者は肺がんで県病院に入院されていて入院先から「テレビのニュースを見たので電話をした」という造船労働者。海上自衛隊の護衛艦に乗船し機関士として勤務され、アスベストを扱っていた退職自衛官。トンネル工事に30年間従事していた労働者。水道工事で石綿管を扱っていたが現在は入退院を繰り返している退職者など様々な相談内容が寄せられた。

広島労働安全衛生センターは、個人会員・団体・賛助会員で構成されています。そしてその会の活動は、会員の会費によって運営されています。

私たちは、働く人たちが心も、元気で働くことのできる快適な職場作りの情報を提供します。

あなたも会員・読者に

◆ 会費 (月)

◆ 個人 1口 400円

団体 1口 2000円

〔尚、会費は本誌購読料を含みます〕

ホーム・ページはこちら

hiroshima-raec@leaf.ocn.ne.jp

<http://www.10.ocn.jp/~hicenter/>